本稿では 700mb 面の過飽和域として調査したため上記のような結論がえられたが，600mb 或は 500mb 又はそれ以上の高度の過飽和域を検出することにより上中層雲の雲形による相違が判明するであろうし，また低高度のものと比較することにより各雲層の高度や拡がりが分り航空予報の精度もさらに向上するであろう．

また，天気を支配するのは水蒸気と垂直流であるが，現在では他に方法がないため気圧系というパラメーターを使って天気の変化を知り，これによって予報を行なっているのである．本稿の過飽和域は水蒸気と上昇流が合成されたものと考えることができるから，CDI 法はパラメーターなしで直接悪天候域を検出する方法である．したがって着氷ばかりでなく雲量，雲形の予想も可能で日常の予報にもかなり精度の高いものがだせる訳であるが (i) 海上ではゾンデの観測がなく等露点線が画けないため過飽和域が検出できないし，(ii) 温度が 0°C 以下の層でしか適用できないから低高度では暖候期には利用できないという欠点がある．しかし (ii) の点については 500mb の過飽和域と 700mb，850mb における気温，露点温度差図とを併用することにより予報精度はかなり向上するのである．

参考文献

1) 森　俊八：着氷の予報，研究時報，**8.** 443～449
2) 光野　一：気象慣熱飛行調査報告，第 3 報，測候時報，第27巻10号（1960年10月）
光野　一：気象慣熱飛行調査報告，第 4 報，測候時報，第29巻 1 号（1962年 1 月）

理　事　会　便　り

第7回　常任理事会議事録

日　時　昭和38年1月7日（月）17.00～20.30
場　所　神田学士会館
出席者　松本，畠山，吉武，岸保，桜庭，増田，有住，須田，今井，神山，淵　各理事（順序不同）
決　議

1. 春季大会の委員長は中田良雄氏にお願いする．
2. 総会議題と研究発表の募集は申込締切を 3 月10日とし大会プログラム，講演要旨等は多少遅れても「天気」3 月号にのせる．
3. 予稿集を刊行し，原則として予稿を出さないものは講演出来ないこととし，予稿提出期限は 4 月10日とする．
4. 藤原賞は気象協会からの依頼により春季大会に出すこととし，候補者推せんに関し学会賞委員会並びに賞および奨励金委員会で次回迄に具体案を考える．